

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立宇和津小学校

1 自己評価書

教育目標	「ふるさとを愛し、夢や希望を持って、たくましく生きる児童」の育成					
基本方針	児童を教育活動の中心に据え、一人一人を生かす教育実践に努めるとともに、家庭・地域に愛され、信頼される学校づくりを目指す。					
本年度重点目標	1 確かな学力の定着と向上 2 学校全体で進める生徒指導・特別支援教育の充実 3 ふるさと学習の推進 4 学校運営協議会の充実・発展 5 教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。 ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施			
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート A ・保護者アンケート A ・児童生徒アンケート B	A	
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B	B	
			家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート C ・保護者アンケート C ・児童生徒アンケート C	C	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート D ・保護者アンケート D ・児童生徒アンケート C	D	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート C ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート A	B	
	(成果と課題) ○研修会で全教職員の共通理解を図り、あらゆる教科で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ●どの学級も、一人1台端末は積極的に活用しているが、EILSを十分に活用できていない。 ●家庭学習や読書に関する評価が、教師、保護者、児童とも低い。家庭学習や読書活動の充実に向けた効果的な取組が実施できていない。					
	(改善策等) ・EILSを有効活用するための研修を継続して行い、教員の意識やスキルを高めていく。また、全校で意識統一を図り、EILSを使った課題等を定期的実施していく。 ・家庭学習において、これまで以上に自主学習ノートの活用を推奨し、児童や保護者が学習を選択できるようにしていくことで、主体的な学習習慣の確立に努めていく。また、授業に関連した読書を家庭学習としたり、電子図書を活用したりすることで、家庭での読書の機会を増やしていく。					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート B ・保護者アンケート A ・児童生徒アンケート A	A
②		児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート A ・保護者アンケート A ・児童生徒アンケート A	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート A ・児童生徒アンケート A ・保護者アンケート A	A	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート A ・児童生徒アンケート A ・保護者アンケート B	A	
③		基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート A ・児童生徒アンケート A ・保護者アンケート A	A	
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にを行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート A ・児童アンケート B	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート C ・児童アンケート B		
(成果と課題) ○生徒指導主事を中心に、校内の協働体制が確立しており、児童や保護者に対して組織的に指導や対応をすることができた。 ●児童アンケートでは、昨年度に比べ、自己肯定感や自己有用感が高くなっているものの、教師の評価が低い。教師が意識的により効果的な取組を行うことで、更なる向上が見込まれると考える。						
(改善策等) ・学習や学校生活の中で、各児童が達成感を実感できるような取組を継続して行っていく。また、効果的な実践について共通理解を図り、全校体制で実践をしていく。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	D B	C
	②	働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○諸問題に対し、教職員間での相談体制が構築できており、情報を共有しながら協力して対応することができた。</p> <p>●平日は超過勤務時間を意識して仕事をすることができているが、学校体育の指導や成績処理、事務作業などで休業日に仕事をすることが多くあった。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・課外活動の負担が特定の教職員に偏らないよう、役割分担や休業日の設定等を考慮して計画を立てていく。</p> <p>・教職員の事務作業の軽減を図るために、スクール・サポート・スタッフを効果的に活用していく。</p> <p>・管理職が教職員の業務内容を正確に把握し、各担当業務の改善について、機会を捉えて適切な声掛けをしていく。</p>						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	
			②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	
③	来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○ホームページを毎日更新したり、学校だよりや学級通信等を定期的に発行したりすることで、学校の様子を積極的に発信することができた。</p> <p>○開催方法を工夫して、学校行事や参観授業、PTA活動を実施することができた。児童、保護者、教職員の交流を深めることができた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員との連携を深めながら、学校運営協議会の充実に努め、今後の学校運営に生かしていく。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満